区分・種別	重要文化財(石造物)		
名　　称	こうりゅうじほうきょういんとう 興隆寺宝篋印塔　　１基		
所　在　地	西条市丹原町古田		
所　有　者	興隆寺	管 理　団 体	
指定年月日	昭和29年9月17日		
解　　説	興隆寺本堂向かって右後方に建立されているこの石塔は、寺伝によれば、源頼朝の供養塔といわれている。２段の基壇上に立ち、総高305cmの花崗岩製である。 保存の状態がよく、基礎より相輪にいたるまで損傷の跡はなく、極めて整った姿を保っている。 塔身正面に梵字(ぼんじ)が刻んであり、基礎部正面の格狭間(こうざま)の中央には蓮弁を浮彫りにしている。 この塔の沿革について、確かな伝承はないが、全体の形式、技法から南北朝時代の作品とみられる。		